調 査 研 究 視 察 報 告 書

会 派 名　　自民清風会

代表者名　　中根勝美　㊞

視察者氏名　　鈴木雅登　㊞　　鈴木　豊　㊞

１　視察日　　平成19年2月5日（月）

２　視察先　　ＮＰＯと行政の対話フォーラム　（神奈川県）

３　視察項目

　伸び続ける市民から行政への要望増大とその対応が今日の市政の課題と理解している。
しかし、その一つ一つに対して行政が対応するとすれば当然その原資を増税という形で
市民への負担をお願いせざるを得ない。
こういう課題の対応策として最近では自助・共助・公助のキーワード
①自分でできることは自分でやる（自助）
②自分では出来なくて、行政に頼むまでもないことは自分たちでやる（共助）
③行政にお願いする（公助）
が注目されるようになってきた。その中で共助を具体化したのが地域ボランティアであり、
それを制度化したのがＮＰＯである。そのＮＰＯが抱える問題点は何かを模索することが
今回の視察の目的である。

４　視察項目の概要

　午前中に全体のシンポジュームと午後に部会というスケジュールとなっていた。
まず、午前中のシンポジュームでは、現実にはなかなか困難な「実りある参加形態と両者の
の為に必要な市民・ＮＰＯと共生に求められる対話の作法について語られた。
午後には3つの部会の中で特に「協働の時代の議会の役割とは」の部会に参加した。
①飯田市自治基本条例制定における飯田市議会の取り組み
②豊中市協働事業提案制度と市議会の役割

５　所感等

　自助・共助・公助のキーワードが今後、脚光を浴びるようになると共助を担う
ＮＰＯの存在は飛躍的に高まると想定される。その時に行政として必要な整備課題は、
ＮＰＯを引っ張るリーダーの育成・資金援助・活動場所の提供ということと理解した。
更にＮＰＯは収益事業を営めることから会計報告の透明性も必要な整備課題と思う。

調 査 研 究 視 察 報 告 書

会 派 名　　自民清風会

代表者名　　中根勝美　　㊞

視察者氏名　　鈴木雅登　　㊞　　鈴木　豊　　㊞

1　視察日　　平成19年2月6日（火）

2　視察先　　社会福祉法人　特別養護老人ホーム　わかたけ青葉

3　視察項目　　都心における特別養護老人ホームの課題について

「年をとったら田舎に住んで畑でも耕したい」という定年退職者よりも
「年をとったら歩ける範囲に生活に必要なものが揃っている都市部に住みたい」という定年退職者が多いと実感している。そこで、今後、都市部での老人介護を含めた今日の介護施設が抱える問題点を探ることが今回の視察の目的である。

4　視察項目の概要

全国的に介護施設のベット増床は抑制されている。しかし、市長の公約もあり横浜市独自で増床している。更に介護需要が強い重度者からというように施設入所基準を厳格化した為に施設運営が様々な点で困難を極めているとお伺いした。

①介護報酬は全国一律なので、60万人の鳥取県でも350万人の横浜市でも同じである。
しかし、施設立地の土地単価や人件費・施設建設費などに地域間格差がある中での全国一律報酬体系では都市部の施設運営に支障がある。

②横浜市独自の増床と岡崎市の様に地域ブロックにわけてベット数を算出していない為に介護施設が地価の安い市街化調整地区に偏在することによる過当競争という実態もあった。

③ショートステイの要望が強いのは正月やお盆などの一時期に偏在しており、1年を通してでは大量の空きベットの存在や当日キャンセルなどが経営の圧迫要因

④三大介護(排泄・食事・入浴)に追われるだけの毎日に疲弊して介護職員の人材不足が深刻化している。

5　所感等

重度介護者を優先して受け入れることを政策として打ち出すのなら、介護の難儀さを反映した報酬単価見直しをかけないと現場の人手不足を招くと思う。
介護に関する需要と供給のミスマッチに対する整合性をはかるシステムを高度化する必要性を認識した。

調 査 研 究 視 察 報 告 書

会 派 名　　自民清風会

代表者名　　中根勝美　　㊞

視察者氏名　　鈴木雅登　　㊞　　鈴木　豊　　㊞

1　視察日　　平成19年2月5日（月）

２　視察先　　ＮＰＯと行政の対話フォーラム　（神奈川県）

１　視察日　　平成19年2月6日（火）

２　視察先　　社会福祉法人　特別養護老人ホーム　わかたけ青葉